

## 第二回 セクシュアルマイノリティ

塩安 九十九

### はじめに

はじめまして、私はこれまでセクシュアルマイノリティ（性的少数者）の活動を当事者として続けてきました。私たちを取り巻く状況について私の視点から少し紹介させてもらいます。

最近セクシュアルマイノリティではなく、LGBT（エルジービィティ）と呼ばれるようになってきました。女として女が好きの人をレズビアン（L）、男として男が好きの人をゲイ（G）、女も男も好きな人をバイセクシュアル（B）、生まれた性別を変えて生きる人をトランスジェンダー（T）

ルです。

私は名前にはさほどこだわりがないので、現在の女っぽい戸籍名を男っぽいものに変更することは考えていませんが、やはり社会生活の中で不都合が出てきました。医療機関に行くのが億劫になります。受付で説明が求められる場合もあり、見ず知らずの人に自分の性別を説明しなければならぬ、待合室でフルネームで呼ばれ、周囲の人の注目を浴びるのもめんどろです。先日選挙がありました。マスクをつけて行きました。生年月日の回答も高めの声で答えたので問題ありませんでしたが、友人は選挙係の人に「大勢いる中で元の性別を明かされて大変不快だったそう。その他、銀行やクレジットカードを作る時、スポーツジムや何かの会員になるため書類を書く時、市役所などで手続きをする時、海外でパスポートが必要な時、見た目と名前との性別が異なるため、怪しまれます。役所の印鑑証明など、性別の関係をい

と言います（性同一性障害も含む）。

LGBが「誰が好きか」という問題である一方、Tだけは「自分の性別は何か」という問題です。よく混同されますが、ゲイやレズビアンなどの同性愛者は性転換しません。自分の性別には違和感はないからです。女のまま女が好き、ということ。一方トランスジェンダーは自分の性別を変えたいと思っており、好きになる対象はそれぞれ異なります。例えば女から男になった人が、女性が好きとは限りません。男として生きていて、男が好きなおもあります。この場合、トランスジェンダーでゲイということになります。

書類からは性別欄の記載をなくしていただく必要があります。

### ●就職の壁

また、性別再適合手術には保険が適用されない、一〇〇万〜四〇〇万円ぐらいの費用を負担せねばならず、大変です。

にもかかわらず、まともに就職することが困難です。履歴書に性別欄があるので、生まれの性別に丸をつけると写真と齟齬があるので会社にめんどろがられて落とされます。見た目の性別に丸をつけると、本採用の時に保険の手続きなどで元の性別がバレて、採用取り消しになるケースもあります。運良くカミングアウトして入社することができても、同僚からの嫌がらせや、周囲にバラすぞという脅しやいじめを受けて退職するケースもあります。実際、アルバイトやパートなどの職にしかつけない人が多いです。そのうえ、男女別のシキタリの多い学校に通うこ

本来、性別というものはひとりひとり顔が違うのと同じように個性的なものである、男女の二つに分けられるものではないし、ひとりひとり違うのだからわざわざLGBTと個別に名前を付ける必要もないことですが、便宜上、個別の課題を明確にするために名前が役立っています。本来の状態を考えると、「性別」という概念自体が「女と男」という固定されたものではなく「バラエティに富んだもの」というイメージに変換されていくことを望みます。一部の人がセクシュアルマイノリティなのではなく、全員がセクシュアルバラエティということ。です。

### ●男女が前提の世の中との齟齬

私は生まれは女ですが、現在は乳房を取る手術をして男性ホルモンを注射している、周囲からはほとんど男として認識されています。LGBTでいうとトランスジェンダーです。女も男も好きになるので、バイセクシュア

とも大変困難なので、中卒や高校中退の人も多く、それが就職や社会に出ることのハードルを上げてしまっています。

私は大変ラッキーで、学生の頃にアルバイトで入った小さな会社に社員として勤めています。「女性のみお茶くみ」などの性別分業もなければ、トイレも男女共通、制服もなく、仕事内容も男女差がなく、男女の区別や異性愛が前提の慣習（バレンタインなど）もないので、不快に感じることはほとんどなく、快適に働いています。

日本の社会はまず属性を確かめたがるのです。その人が何ができるか、どんなことをしてきたかよりも、男女どちらかなのか、年齢はいくつか、どこかの大学を出たか、などが重視されます。カナダに移住した友人によると、カナダでは履歴書に性別、写真、病歴など差別の要因になる事項は記載してはいけないそうです。

## ●ゲイ・レズビアンへの結婚、子ども

世界では四〇近くの国に同性婚または同性パートナーシップ法があります。日本にはありません。先日、女同士で付き合っている友人カップルがゲイ男性から精子をもらい、出産しました。しかし女性同士で結婚はできないので、書類上はシングルマザーということになります。結婚できないということになり、一緒に家を借りるのが難しく、税金の控除を受けられなかったり、マンションや車などの共同購入が難しくなったり、相続ができなかったり、生殖医療を受けられなかったり、緊急時に単なる同性の友人扱いされてしまうなど、生活の様々な局面で不都合があります。最近、ドイツ・オランダで女性同士のカップルが挙式を上げて話題になりましたが、結婚とは上記の制度的側面と、社会に認知されるための側面があります。同性同士でもカップル

ルや家族として扱われ、という感覚が広まれば制度の方も即してこざるを得ないでしょう。一部の携帯電話会社の家族割は同性カップルでも問題なく利用できるようです。

ちなみに、欧米諸国の研究では、同性カップルに育てられた子どもと、異性カップルに育てられた子どもに有意差は見られないという結果が出ています。むしろ同性カップルに育てられた方が安定しているという結果さえあります。それは当然とも言えます。なぜなら子どもがほしくてほしくて、何年もかけて準備し、両方の親が出産や赤ちゃんについて勉強して、もしも二人が別れた時のこと、子どもが大きくなってなぜ自分が生まれたのか聞いてきた時など、どうするか綿密な検討を経て、満を持して産まれてくる子どもを待ち構えているのですから。片方の親が無関心だったり、できちゃった婚が少なくない異性愛のカップルとは、育児の姿勢と準備期間が異なるよう

です。つまり、子育てに必要なのは親の性別ではなく、子どもへの愛情と子育ての知識・準備だということです。

## ●トランスジェンダーへの結婚、子ども

ゲイやレズビアンへの結婚については先に示しましたが、トランスジェンダーにも子どもをもつ人はいます。子どもを産んでから性別を変える人もいます。元女性の男性(夫)と女性の妻(妻)のあるカップルのケースでは妻の側が不妊症だったため、夫の方が妊娠・出産したという外国の記事が一時話題になりました。ヒゲをはやした男の人が大きなお腹をしている写真が印象的です。私は「妊娠・出産＝女性」と考えていたのでこの写真にはショックを受けました。上記の子育ての話にもつながりますが、子を産み育てることと、性別は別々に考えられるということ、す。女だからこう、男だからこう、という価値観に私もまだ囚われていることに気づかされました。そう思うと、

私も女としてではなく、一人の大人として、妊娠・出産を選択したとしてもおかしいことではないのだなと目からウロコが落ちました。

もちろん、どんな性別であれ妊娠・出産という大仕事を人にはきちんとした心理的経済的サポートを社会が用意するべきです。少子化しているということは日本にそれらが十分に用意されていない証拠です。男女の結婚を促すのではなく、産むひと個人に焦点を当てた政策が必要だと思います。それは異性愛の否定にもならないし、LGBTの否定にもならないと思います。

## ●障害、介助

最近、障害のある人の介助ボランティアに入ることがありました。お風呂のこともあるので私は胸を取っていること、男性に見える外見であることを告げ、それでもいいか聞くとその人(女性)は特に問題ないということでした。

このように介助者がLGBTである場合、利用者がどう思うのかわかりません。LGBTに対して偏見を持っている利用者なら、セクハラされるのではないかと恐れることもあると思います。あるいは、女性なのに筋力があると重宝されるかもしれないし、いや安性重視なので移乗などは大柄な男性に来てもらいたいという女性利用者もいると思います。介助を仕事にしているLGBTはカミングアウトしづらい環境にあります。一方、利用者がLGBTである場合、これもカミングアウトしにくく、偏見を持っている介助者であれば、生活の中で地味な嫌がらせをしてくるかもしれないし、自意識過剰に「自分のことを好きになられたら困る」とか言ってくるかもしれない(異性の介助に入る時には言わないと思います)。しかし自分の好きな服を着たり、LGBTのサークルや飲み屋に行くためにはカミングアウトせざるを得ません。介助者・利用者だけで

なく社会全体が、LGBTがこの世に存在していることを認識する必要があります。

## ●何が社会を変えるのか

長年LGBTの活動をしていてわかったことは「人は困らないと変わらない」ということです。私たちがどれだけLGBTについて多くの知識を提供したり、時には涙をさそうようなライフヒストリーを語ったりしても、多くの人は自分とは関係ないと感じ「大変な人もいるんだな」で終わりです。そこで考え出したのが「偽カミングアウト」のレポートです。ある大学で講師を務めているのですが、数年前からある課題を出すことにしました。

家族または友人に「自分は同性愛者である」と偽のカミングアウトをし、自分がカミングアウト前後にどのような心境になり、感じ考えたか、家族または友人がどのような反応をしたか、体験を踏まえLGBTが生きやすい社

会にするため自分に何ができるか、一五〇〇字以上でまとめる、というものです。偽カミングアウトができなかった場合は、できなかった理由、他のマイノリティ（例えば在日、部落、精神疾患、原発付近で育ったなど）の場合ならできたのか、その理由を同性愛の場合と比較し自分の持っている偏見はどのようなにつくられてきたか考察し、自分が持っている偏見をなくす解決方法は何か、一五〇〇字以上でまとめる、というものです。偽カミングアウトをしたくない人は、同性婚についての調べ物をするという選択可能な課題です。多くが気軽に偽カミングアウトのレポートを選びます。「そんなの簡単じゃん」と。しかしその半数は結局できずに終わります。それにしても、いつもこのレポートは名言が溢れています。

誰かからカムアウトされたら受け止めようという思いがあるのに、いざ自分がやるとなると、家族も友人も信用できなくて不安で実行できなかった。

その場のマジョリティがその場のマイノリティに対して負うべきことを考えたり、実行したりしています。

私もトランスジェンダーですが、日本国籍で、男性に見えて、健常者で、日本語話者であるというマジョリティの側面も持っています。それぞれがマイノリティとして自己主張するだけでは変わらないと思います。他の側面では自分が他のマイノリティに関してできることに取り組むことが必要です。マジョリティがマイノリティの声に耳を傾け、率先して気づき、配慮を当たり前のこととして取り組むことが社会の共通認識であってほしいと思います。人権に取り組む諸団体ではどうでしょうか。お金も組織もあるところが、自らのマジョリティ性に気づき、そうした取り組みを率先して牽引してきたと言えるでしょうか。

## ●最近のこと

最近では世代交代をするため、二〇代

今までマイノリティの人たち自身が告白することも大切だ、と考えていた自分が恥ずかしくなった。自分のマイノリティに対しての偏見が、そのままだれかに対する「不安」につながっていた。まさにそうです。これからの人生、どちらがより困難かはお察しのおとり、偽カミングアウトができなかった方の人生だと思っています。

偽カムアウトの課題をする、しかも拒絶される体験という痛みを通してしか、LGBTの人たちの状況を理解することができないかもしれないという事実は悲しい。

まさにそうです。私もこのレポートの採点（と集計&コメントをつけて後日フィードバック）をすることが億劫でなりません。「小芝居の一瞬であってもLGBTなんかだと思われたくない」というたくさんのレポートに傷つくからです。しかし、残念ながらこの過程を経ずに学生に問題を理解してもらう以外の方法を思いついていません。

の人たちに頑張ってもらおうようにしています。私が受け持っていた研修や講演も彼らに行ってもらおうようにしています。若い人たちのパワーと信念を応援して、信じて任せていきたいと思っています。様々な運動団体で人手不足、高齢化が愚痴られますが、自分たちが楽しいことをしているか、内容が魅力的であるか、若者を対等に扱っているかなど、気をつけていきたいところです。

今後も、性別という、誰もが少しずつ困ったり悩んだりしている分野だからこそ、そこを手がかりに人々に響く方法を模索していきます。現在は小学校の先生たちと性教育の教材開発に取り組んでいます。従来の性教育の中にLGBTを入れること、もつと人権教育としての性教育にシフトさせることに重点を置いています。この先生方の協力を得て作ることができたDVD「いろんな性別〜LGBTに聞いてみよう〜」は関西の多くの先生に渡すこ

この倫理的に問題のあるレポートですが、誰も止めてくれないので（笑）今年で三年目になります。部落出身であると偽のカミングアウトをする課題を出したらどんなことが起こるでしょうか。

## ●誰が社会を変えるのか

マジョリティが気づき、行動を起こすことでしか本当の意味で状況は変わらないというのは、LGBTの中でも同じことが言えます。女性の所得が男性の六割程度である世の中で正社員のゲイカップルは裕福です。またLGBTの中でも圧倒的マジョリティであるゲイにはたびたび批判が向けられます。レズビアン&ゲイパレードがレインボーパレードに名称を変えたり、LGBTの作品を集めた映画祭の上映作品もLGBTが均等に扱われるようにしたり、ゲイオンリーからミックス（誰でも参加OK）にイベントが変わったり、車椅子の来場を想定したり、手話通訳をつけたり、英語を併記するなど、

とができ、活用してもらっています（ご入用の方は郵送しますので連絡ください）。

また、昨年から運営が危ぶまれているリバティおおさか（大阪人権博物館）は公的機関としては日本で唯一LGBTの問題を展示しています。博物館の存続のためのイベントも随時開催しておりますので「リバティおおさかを応援する！プロジェクト」のブログもご覧ください。

### ちよこD.R

塩安九十九（しおやすつくも）

行政にLGBTの人権問題を提起したり、学校へ講師に行ったり、教材を制作したり。性別違和感を持つ人々へのピアサポートなども。共著「トランスがわかりません!!」『恋愛のフツウがわかりません!!』小学生向けDVD教材「いろんな性別〜LGBTに聞いてみよう〜」など。

DVDご希望の方は下記にメールください。  
s. lightsonugi@gmail.com

（しおやす・つくも） GIFFRONT  
関西所属、新設Cチーム企画主宰